

Docs —これはイメージです—

やさしい 見どころガイド

えいぞうさい
映像祭に かわいい
エビソウ
ye (b)izo ちゃんが
えいぞうさい あんない
映像祭を 案内します。



イラスト:ひらのりょう



えびすえいぞうさい
恵比寿映像祭 WEB



とうきょうとしゃしんびじゅつかん
東京都写真美術館 WEB

えびすえいぞうさい 恵比寿映像祭

「映像」という言葉には、たくさんの意味があつて、時や場合で変わります。同じように「映像作品」と呼ばれるものも、いろいろな形や表し方があります。映像を見る方法もいろいろと変わってきました。恵比寿映像祭では、「映像とはどんなものなのか」について、考えてきました。

恵比寿映像祭は、2008年に始まり、今回で17年目になります。毎回、「映像って何なんだろう」ということを考えるためのテーマを決めて、テーマに合わせた日本や世界の作品を紹介してきました。

えびすえいぞうさい 恵比寿映像祭2025



今回のテーマは「Docs —これはイメージです—」です。ドキュメント (document) は、書類のように紙に書いて残したものや、本当にあったことの情報を記録したもののことです。

ドキュメンタリー (documentary) は、本当にあったことを記録した映画という意味でも使われます。

130年前、映像が初めて発表された時、それを見た人は、目の前の様子が動いて記録できるとに驚きました。今では、だれもが写真や映像に撮って記録し、見せることができます。そして、昔は紙やフィルムだった写真や映像は、デジタルデータになったことでもっと自由で広がりができました。

写っているものと、事実の関係は、複雑ではっきりしなくなりました。

今回の恵比寿映像祭では、いろいろな作品を、そこに写っているものと言葉をきっかけにして、「ドキュメント (document) / ドキュメンタリー (documentary)」についてもう一度考えてみようとしています。

展示のほかに、作家の話が直接聞けるイベントなどがいろいろあります。詳しくはWEBサイトをご覧ください。



きょういくふきゅう 教育普及プログラム

いろいろな たのしい ワークショップがあります。予約がいらないものもあります。参加してみましよう。

詳しくは、WEBサイトをみてください。



たの えびすえいぞうさい みんなが楽しめる恵比寿映像祭

赤ちゃんとお休みできるスペースがあります。障がいがある人のために、いくつかのサポートがあります。受付には毎日、手話のできるスタッフがいます。イベントの一部には手話や文字での説明があります。

展示室の壁についているフロアガイドは、音声で聞くこともできます。使い方は、各階の入口にある説明書をご覧ください。



UDトーク

ユニボイス

かい 1階 ホール

日本や世界のいろいろな動画が見られます。日本で初めて紹介



するものもあります。本当にあったことを記録したドキュメンタリー映画や、アニメーション、新しい表現を試した実験的な作品があります。

見どころは、1960年代から1970年代ころにつくられた日本のドキュメンタリー映画です。また、3階ので展示している「コミッション・プロジェクト」の作家の作品も上映します。また、3階ので展示している「コミッション・プロジェクト」の作家の作品も上映します。また、3階ので展示している「コミッション・プロジェクト」の作家の作品も上映します。

【日本のポスト・ドキュメンタリー 特集③ 日大映研 特集】



にほんだいがくけいじゆつがくぶ えいががつかえいがけんきゆうかい
日本大学芸術学部 映画学科映画研究会

《Nの記録》1959年
とうきょうとしゃしんびじゅつかんぞう
東京都写真美術館蔵

【オーラ・サツ 《Preemptive Listening》2024年】



©Aura Satz, 2024

地下1階 展示室

19世紀につくられた古い写真や、コンピューターなど新しい技術でつくった作品があります。イメージと言葉について考えていきます。劉玗（台湾）のインスタレーションの作品を、日本で初めて紹介します。

修復した古川タクの手描きアニメーション作品や藤幡正樹のメディア作品が見られます。また、東京都コレクションの19世紀につくられた写真作品などを見ることができます。



古川タク
《ニッケル・オデオン・動画劇場》1988年
東京都写真美術館蔵



劉玗
《If Narratives Become the Great Flood》2020年
Commissioned and supported by the Hong Foundation

※写真はすべて「参考図版」です。

2階 展示室

2階展示室の作品のキーワードは、「からだ」、「時間」、「パフォーマンス」です。時間を記録することについても考えます。トニー・コークス（アメリカ）の作品を日本で初めて紹介します。美術館の外にも作品があります。探してみてください。



イトー・ターリの展示は、映像や本人についてのいろいろな本や資料の記録から作家のことを考える展示です。

ライブやスペシャルトークも楽しんでください。



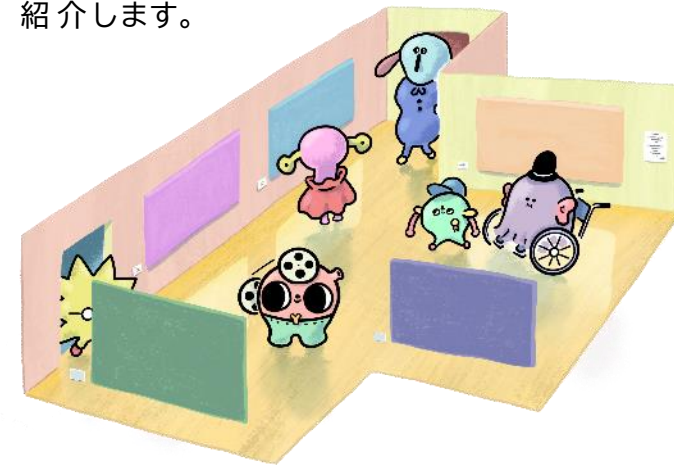
トニー・コークス《「This isn't theory. This is history.」展(企画:Luca LoPinto)、(ローマ現代美術館[MACRO])2021年 作家蔵
Courtesy the artist, Greene Naftali, New York, Hannah Hoffman, Los Angeles, and Electronic Arts Intermix, New York. Photo: Simon d'Exéa. [参考図版]



イトー・ターリ《ひとつの応答—パ・ポンギさんと数えきれない女たち》(2012年12月「アジアをつなぐ—境界を生きる女たち1984-2012」展 沖縄県立博物館・美術館)パフォーマンス使用画像より [参考図版] 写真提供:ターリの会

3階 展示室

「コミッション・プロジェクト」は、これからの活躍が楽しい作家を応援するプロジェクトです。今年は、4人の作家の新しい映像を紹介します。



小田香 (ODA Kaori)
永田康祐 (NAGATA Kosuke)
小森はるか (KOMORI Haruka)
牧原依里 (MAKIHARA Eri)



それぞれの作家たちの作品から「ドキュメント /ドキュメンタリー」を考えます。また、映像祭の会期中に4人の中から特別賞の作家を決めます。

総合テーマ「Docs —これはイメージです—」は、この4人の作品をヒントにして決めました。



※「コミッション・プロジェクト」(3階 展示室)のみ
3月23日(日)まで展示します。



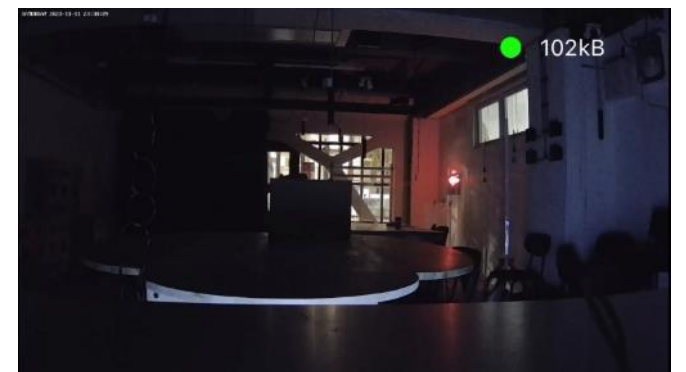
小田香
《母との記録「働く手」》2025年



永田康祐
《Fire in Water》2025年



小森はるか
《春、阿賀の岸辺にて》2025年



牧原依里
《三つの時間》2025年